

國學院大學学術情報リポジトリ「K-RAIN」

国学研究会

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學 公開日: 2024-07-02 キーワード: 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000595

国学研究会

日本文化研究所では、研究プロジェクト「『国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」の一環として、2020年度も国学研究会を開催した。

この研究会は、日本文化研究所の神道・国学部門が長年行ってきた研究会を継続するものであると同時に、上記研究プロジェクトの3本の柱である「近世・近代国学に関する研究史・学説史の整理と国学史像の再構築」、「国学・神道関係人物データベースの拡充」、「国学研究のネットワークの拡張」と関連させ、若手研究者の研究成果の発表と共有を目的として開催されている。また学内外の若手研究者を招いて交流することによって、とりわけ第3の研究ネットワークの拡張も企図した研究会である。

本研究会は、原則として月1回程度、学内はもとより、学外からも神道・国学などを研究する若手研究者を招いて、各自の最新の研究成果について発表してもらうこととしている。しかしながら、本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大があったため、後期からプロジェクトに参加する若手研究者を中心に、オンラインで開催することとした。

以下、本年度開催された研究会の日時と発表者、発表題目である。

第1回 2020年11月11日18:30~20:00
鈴木健多郎（國學院大學大学院生）「内山真龍の古事記歌謡研究」

第2回 2020年12月8日18:30~20:00
河合一樹（日本文化研究所PD研究員）「近世における『姓氏録』の受容とその思想史」

第3回 2021年2月18日18:30~20:00
木村悠之介（日本文化研究所研究補助員）「折口信夫の神道論における普遍と特殊」

第4回 2021年3月18日18:30~19:30
武田幸也（國學院大學助教）「国学概説書第12章1875~1890年の国学」

次いで、各回の発表内容について以下に摘記しておく。

第1回は内山真龍の古事記歌謡研究における本居宣長の学説受容について検討したものである。

第2回は細井貞雄『姓序考』の検討を中核に近世思想史における氏姓研究の展開と意義を検討したものである。

第3回は折口信夫の神道論について普遍と特殊の観点から再検討を行ったものである。

第4回は国学概説書の第12章にあたる1875年から1890年の国学史について執筆者が報告した上で、概説書の内容案等も含めて議論・協議したものである。いずれの回の研究会も参加者により活発な議論が交わされた。

以上のように、本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大もあったものの、オンラインを活用することによって、計4回の国学研究会を開催し、成果の共有・学術交流を果たすことができた。

最後に、これらの研究成果の一部は、『國學院大學研究開発推進機構紀要』第13号（令和3年）等にも公開している。

（武田幸也）